



気仙三陸 *ALSO* @岩手県立大船渡病院

令和5年3月11日、12日

我々はいつも、『お産が安全に終わること』を願っています。しかし、時として出産は母体・胎児・新生児にとって命の危険を伴うこともまた事実です。我々は常に、一人たりとも死なせない・絶対に死なせないという、強い意識を持って現場で戦っていますが、マンパワー不足が明らかな産婦人科医師のみに全負担を強いることには無理があることも明らかになってきました。

Advanced Life Support in Obstetrics(*ALSO*)とは、医師やその他の医療プロバイダーが、周産期救急に効果的に対処できる知識や能力を発展・維持するための教育コースです。1991年に *ACLS* と *ATLS* に基づいて、ウィスコンシン州のプライマリケア医師二人が *ALSO* を考案、1993年にコース権利は *American Academy of Family Physicians* (*AAFP* - 米国家庭医学会) によって認可され、現在全米ではほとんどの分娩施設において、分娩に関わる医療プロバイダーが *ALSO* の受講を義務づけられています。また米国の家庭医レジデンシープログラムのほとんどが *ALSO* をプログラムに導入しています。世界的にも普及活動が行われており、50カ国以上でプロバイダーコースが開催され、10万人以上が *ALSO* コースを完了しています。

コースは、レクチャー、症例検討、実地訓練のためのマネキンを使用したワークショップからなります。*ALSO* は *LDR* における産科の救急的対処がメインですが、その他に出産前のリスク評価やチーム医療・連携の重要性を強調しております。プロバイダーコースは二日間からなり、プロバイダーコースを受講し試験に合格した場合は、参加者は3年間有効の認証を受けることができます。

日本では2008年11月に金沢で日本初のプロバイダーコースが開催されて以来、現在までにほぼ全ての都道府県で、10000名以上が *ALSO* コースを修了しています。岩手県においても2015年2月に岩手医大で初開催され、今回が6回目となります。参加者は産婦人科医、プライマリケア医、研修医、救急医、麻酔科医、助産師、看護師そして医学部学生・助産学生などであり、現在あるいは近未来の日本の周産期医療体制において、分娩や周産期救急に関わる可能性のあるすべての医療人が参加しています。周産期医療は、産婦人科医だけではすでに成り立たない状況になりつつあることは周知の事実です。日本全国のすべての地域でできるかぎり同じレベルの周産期医療を維持するには、周産期医療に関わりたいという志を持った人たちをトレーニングする場を多く提供し、最低限必要な医療チーム体制をあらゆる医療圏に確保する必要があります。ま

さにその足がかりとなるトレーニングコースが ALSO です。ACLS を受講したメンバーが多い救急外来においては、流れるようなチーム医療で心肺蘇生が行われています。ALSO コースにより産婦人科医のみならず助産師・看護師・救急医といった周産期プロバイダーが共通の言語を持ち協力し緊急事態に対応し、母児を適切に救命できる未来を願ってやみません。

～母児を適切に救命できる未来のために～

ALSO-Japan

気仙三陸 ALSO プロバイダーコース @岩手県立大船渡病院

主催：岩手県立大船渡病院 産婦人科・救急科

共催：NPO 法人周産期医療支援機構（OPPIC）

開催場所：岩手県立大船渡病院

岩手県大船渡市大船渡町字山馬越 10 番地 1

0192-26-1111

（担当者：産婦人科・金杉知宣 救急科・淀川祐紀）

日時：令和 5 年 3 月 11 日(月)、12 日(日)

受講料 15750 円

(インストラクター・受講生とも気仙地域周辺から募集いたします)



KESEN-SANRIKU ALSO provider course
Advanced Life Support in Obstetrics 2023
IWATE Prefectural OFUNATO Hospital

